



応援の心に応えてられる学校に

校長 橋本 滋

吹く風にも柔らかさを感じるようになり、陽の強まりとともに、正門わきの桜の蕾もわずかにふくらみ始めてきました。この間、年が明けたと思ったら早いものでもう3月を迎えました。平成29年度も終わりに近づいてきました。この間、保護者、PTA、育成会を始め地域、関係の皆様を支えられて、充実した教育活動を展開することができました。

先月は、韓国で平昌オリンピックが開催され、日本選手の活躍が連日のように報道され、テレビの前で熱く応援された方もいたことと思います。多くの選手がインタビューの中で、様々な方への感謝の言葉と、応援してもらっていることが心強く励みになっている旨のことを述べていました。オリンピックに限らず、プロサッカーでもプロ野球でも選手と一体になった応援が選手のパフォーマンスを上げています。応援する人は、試合に出ることはできないのですが、正に選手と一体になって戦っています。

私がかつて読んだ小説に「応援」をテーマにしたものがありました。題名は「団旗はためくもとに」（重松清著）です。小説の中での母と娘の会話です。娘：「応援って意味ないよね」「がんばれって言ったりエールをきったりしてもぜんぜん役に立たないじゃん。そんなの自己満足っていうか、ばかみたいじゃん」これに対して、元応援団長を夫にもつ母親：「応援って、がんばれ、がんばれって言うことだけじゃないの」「ここにオレたちがいるぞ、おまえは(選手)一人ぼっちじゃないぞって教えてあげることなの」「応援団は絶対グラウンドには出られないの。だからスタンドから思いっきり大きな声を出して教えてあげるの」応援の意味をこのような会話で伝えています。

私は、「オレたちがいるぞ。ひとりぼっちじゃないんだぞ。」というこの言葉に「なるほど」と思いました。どのようなスポーツであっても動きはメンタルに大きく左右されます。そのメンタルを好転させる力として応援があるのだと思います。このことは、スポーツに限ったことではありません。日常生活の中で落ち込んだり、つらいことがあったりした時、それを分かってくれる人、励ましてくれる人がいれば心が救われます。「あなたのこと分かるよ」その一言がその人の力となり、また前に進む力になるからです。

さて3学期は、大東小学校に関係する様々な会合や催しがありました。「民生・児童委員会」「学校評議員会・評価委員会」「SSN会議」「育成会昔あそび大会（これから開催）」「交通指導・旗振り講習会（これから開催）」また年間をとおして行っている「土曜チャレンジ・放課後チャレンジ」や育成会の諸行事など、学校は多くの方々に支えられて成り立っています。改めて感謝申し上げます。そして「スクールサポートネットワーク（SSN）」の趣旨を生かした取組が日々実践されています。その中でアドバイスいただくことやご意見をいただくことは、学校への応援の声の一つだと受け止めています。そしてその思いは、「子どもたちのために」です。そして学校はその励ましの声に応え、子どもたちの心に寄り添い、様々な機会をとおして、その良さを認め伸ばす子どもたちの応援団でありたいと思います。

保護者、地域の皆様方には、様々な面でお世話になりました。地域や保護者から応援してもらえる学校、応援しがいのある学校として、今後とも大東小学校の発展のために、ご支援、ご協力よろしく申し上げます。

追記：来年度大東小学校は創立50周年を迎えます。記念式典は開校記念日の7月7日（土）に行います。（当初予定の6月16日（土）を変更）今後も変わらぬ応援よろしく申し上げます。

